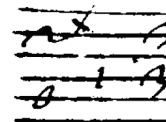
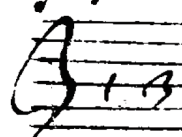


京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts - founded in 1880 -



リ
ユ
ー
ト
・
タ
ブ
ラ
チ
ユ
ア
の
記
譜
法
を
考
え
る
—
—

鳴
る
と
あ
わ
い
記
す
の

2022年3月20日(日)

13:00-16:00 / 12:30 開場

場所：京都市立芸術大学大学会館ホール

企画：芸術資源研究センター

「音と身体の記譜研究」

J. I. A.



楽譜には、音楽を演奏するにあたっての様々な情報が書き込まれている。この楽譜を書く方法のことを記譜法（ノーテーション）という。

楽譜に書き込まれた情報は演奏をする際に必要なことながら、必要なことからの定義は、地域や文化によって、また同じ地域でも時代によって変わる。

いっけんすると慣習的な読み方で読めるようでも、特定の地域や時代特有の読み方が必要なこともある。また楽譜に書かれていない情報を奏者が読み出すことが必要なことも、奏者によって引き出される情報が異なる場合もある。

ルネサンス期のリュート・タブラチュア（奏法譜）は、文章の句読点に相当する休符が書かれていない。そのため、この時代特有の多声的（ポリフォニック）な音の響き（テクスチュア）も、タブラチュアの表面からすぐには読み取れない。ただ、楽譜に書かれていないことを読み出すための読み筋はあり、書かれている情報の背後には、隠されたテクスチュアがある。

記譜法とは、端的に言えば、実際に演奏される音を書き記すための行為であるわけだが、記すという行為と現実には鳴る音とのあいだは、決して直線で結ばれてはいない。

本ワークショップでは、ルネサンス期のリュート・タブラチュアの記譜法を通して、鳴る音と記す行為のあいだを考える。

竹内直（芸術資源研究センター非常勤研究員、プロジェクト・リーダー）

2022年3月20日（日）

13:00-16:00 / 12:30 開場

◆ワークショップ 13:00-15:00

◆トーク・セッション 15:15-16:00

会場：京都市立芸術大学大学会館ホール

（京都市西京区大枝杏掛町 13-6）ご来場は公共の交通機関をご利用ください。

定員：50名（参加無料）

下記のQRコードよりお申し込みください。（先着順）

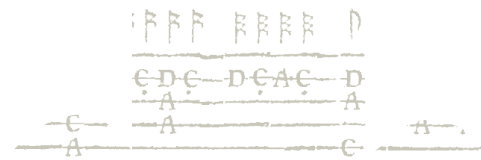


主催：京都市立芸術大学芸

企画：京都市立芸術大学芸術資源研究センター「音と身体への記譜研究」プロジェクト

▶新型コロナウイルス感染防止対策のため、当日受付で検温等に御協力をお願いします。

リュート・タブラチュアの記譜法を考える——鳴ると記すのあい



◆ワークショップ講師

笠原 雅仁（声楽家、古楽器奏者）

武蔵野音楽大学声楽科にて宮本昭太氏に師事。同大学卒業後は有村祐輔氏のもとで声楽、古典音楽理論を学んだ後、1998年に渡英。ロンドンの英国王立音楽大学、大学院古楽科にてN. ロジャース、S. ロバーツの各氏に声楽を、J. リンドベルイ氏にリュートを師事。2002年より仏国のパリ市高等音楽院古楽科にてコレットをJ. テューベリ氏に師事。2007年にディプロマを取得し、卒業。アンサンブル「エリマ」、「カンパニー・オートルムズール」など、フランス内外の主要なバロックオーケストラやアンサンブル等と共演、またCDやラジオ・フランス、BBCの為の録音に参加する等、特に初期バロック音楽の専門家として国内外で活躍中。また、パルコ劇場主催の舞台劇「メアリー・ステュアート」にはリュート奏者として出演するなど、様々な分野での活動を広げている。「アンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニ」主宰。

◆トークセッション・ゲスト

岡田 加津子（作曲家、本学教授）

神戸生まれ。東京藝術大学作曲科卒業、同大学院音楽研究科修了。2003年バロックザール賞、2016年藤堂音楽賞受賞。作曲活動の一方で、楽譜を使わないで音楽する「リズムック・パフォーマンス」のワークショップを全国的に展開。また近年は、バシエの音響彫刻の保存と、音響彫刻を用いた新しい創造活動、教育活動に情熱を注ぐ。京都市立芸術大学教授。京都在住。

三島 郁（音楽学、本学非常勤講師）

東京学芸大学大学院修士課程修了後、ケルン大学に留学、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。専門分野は西洋バロック期から19世紀の鍵盤楽器音楽の演奏・作曲論、数字付きバス文化研究。チェンバロ、通奏低音を亀谷喜久子、岩淵恵美子、C. チェラジの各氏に師事。国内外でバロック期の音楽や音楽修辭学などのレクチャーやコンサートを企画・開催。共著に『音楽文化のすすめ：いまここにある音楽を理解するために』（2007年、ナカニシヤ出版）、『音楽を考える人のための基本文献34』（2017年、アルテス・パブリッシング）他がある。京都市立芸術大学、同志社女子大学、大阪音楽大学、甲南女子大学、大阪教育大学、各非常勤講師、京都市立芸術大学芸術資源研究センター共同研究員。

| トークセッション司会 | 滝 奈々子

（芸術資源研究センター非常勤研究員）

| コーディネーター・進行 | 竹内 直

（芸術資源研究センター非常勤研究員、プロジェクト・リーダー）

40

あわい